

タイトル	<i>The Rabbits' Wedding</i>				
著者（文・絵）	Garth Williams				
出版年	1958 (初版)	出版社	HarperCollins		
翻訳版	『しろいうさぎとくろいうさぎ』まつおかきょうこ訳、福音館、1965年				
総語数	630語	ページ数	32ページ	YLレベル	1.5
あらすじ					
<p>あるところに仲良しの白うさぎと黒うさぎがいました。二匹はいつも広い森のはらっぱで楽しく遊んでいました。あるとき、ひとしきり遊ぶと黒うさぎが思いつめたように悲しそうな顔をします。白うさぎがどうしたのか尋ねると考えごとをしていたんだというばかり。そこで白うさぎが「何をそんなに考えているの?」と聞くと、黒うさぎは、「これからもずっと君と一緒にいられるように願い事をしてたんだ」と告げます。二匹は森の仲間に祝福されながら結婚式をあげ、それからずっと仲良く暮らしました。</p>					
紹介					
<p>本作品は、ねずみが主人公のお話『スチュアート・リトル』や『大草原の小さな家』シリーズなどの挿し絵で有名なガス・ウィリアムズの作品です。ウィリアムズの絵は繊細なタッチで、動物の毛のフワフワした感触が見事に描かれた、やさしい絵柄をしています。この絵本でもうさぎの柔らかい毛並みが美しく描かれています。白いうさぎと黒いうさぎが主人公だけあって、ベースは白黒で描かれ、タンポポのお花だけ黄色いカラーがつけられています。</p> <p>日本では、プロポーズのときに贈ったりするなど、永遠の愛をやさしく捉えた作品として評価されているようです。子どもの頃、この作品を読んだときには、仲の良いお友達とずっと仲良しでいられるか不安に思った自分の気持ちと黒いうさぎの気持ちが重なり、黒うさぎの気持ちに同化して読んだ記憶があります。そのため、その後この作品がアメリカで論争になった作品であることを知り、非常に驚いたものです。初版が1958年であり、公民権運動が盛んな時代だったからかもしれませんが、白いうさぎと黒いうさぎを白人と黒人の比喩であると捉え、異人種間の融合を説くプロパガンダであるという主張がなされました（南部アラバマ州では禁書扱いとなりました）。作者のウィリアムズはそのような意図のもとに描いたものではないとしていますが、このような作品にそういった解釈がされるほど、白人と黒人の緊張関係はアメリカでは身近でかつ根深いものであることが伝わってきます。個人的には、人種差別の論争を招いた作品としてではなく、だれかを恋しく思う普遍的な思いを表現した心に響く作品として記憶していきたい絵本です。</p>					
指導ポイント・授業活用例・学生の声など					
【注意すべき英語表現ほか】					
やさしい英語で書かれているので、特にありませんが、What's the matter? 「どうしたの」					

と I was just thinking. 「ちょっと考え事をしていたんだ」という表現がしっかり記憶に残ることと思います。(考え事をしていたという日本語から英語に訳そうとすると意外と英語が出てこないと思いますが、実にシンプルに表現できることがわかります。)

【授業活用例】

ディスカッション

以下のようなテーマで話し合いをしてみましょう。

- 黒いうさぎのような気持ちになったことはありますか。
- 黒いうさぎにライバルがいた、という設定にしたら、どんなライバルを登場させますか。
- うさぎではなく、他の動物を主人公にしたら、イメージは変わるでしょうか。うさぎではなく他の動物を選ぶとしたら、あなたならどの動物を選びますか？
- この絵本のイラストはタンポポが黄色で描かれている以外、白黒で描かれています。それにはどんな効果があると思いますか？

関連作品・参考 URL

- Garth Williams (2001). *Benjamin's Treasure*. Illustration by Rosemary Wells. HarperCollins.
ガス・ウィリアムズ作でローズマリー・ウェルズがイラストに手を加えた *Benjamin's Treasure* というお話があります。1951年にウィリアムズが描いた *The Adventure of Benjamin Pink* は白黒でしたが、それを短くしカラーをつけたものです。Benjamin といううさぎが妻の Emily と幸せに暮らしていましたが、宝探しに出かけ...というお話です。『しろいうさぎとくろいうさぎ』よりも前に描かれた話ですが、これを読むとやはり異人種間の融合といった批判は的外れであると感じます。宝探しに出かけたものの、自分にとっての宝物は妻の Emily だったことに気づく、というやさしい愛情を描いたお話です。カラーだとまた雰囲気が違います。

(文責：小林めぐみ)